

江戸の好古趣味

平成22年 1月5日(火)～2月14日(日)

時代を経た「古きもの」に言いようのない愛情を感じ、蒐め楽しむ人々は、いつの世にもいます。なかでも江戸時代の中・後期は、「好古家」と呼ばれる人々が数多く現れた注目すべき時代でした。その蒐集対象は広く、書画や典籍・美術工芸品だけでなく、瓦のかけらにもおよび、その成果は書籍として出版されました。また、復古的な関心の高まりから「古」に理想をもとめ、「古きもの」を模写・模倣して当時の文物に取り入れようとする試みも積極的に行われました。

ありとあらゆる古い文字を集めた藤貞幹(1732～97)、全国の古書画・古器物を調査させ『集古十種』を編纂した松平定信(1758～1829)、そしてこの尾張の地にも尾張徳川家九代宗睦(1733～99)をはじめ、さまざまな好古趣味をもった人々の足跡が残されています。

「古きもの」に魅了された人々と、彼らが遺した偉大なる業績の数々を紹介します。

No.	名 称	時代	世紀(年号)	所蔵先
あつめる・うつす・かんがえる				
1	古瓦譜 藤貞幹著・自筆序文	二冊	江戸 安永5年<1776>	*
2	好古日録 藤貞幹著	二冊	江戸 寛政9年<1797>	**
3	好古小録 藤貞幹著	二冊	江戸 寛政7年<1795>	**
4	和漢研譜 石希聡編	三冊	江戸 寛政7年<1795>	**
5	装束異紋	五味家伝来	江戸 寛政元年<1789>	*
6	色のちくさ 田中訥言編		江戸 文政元年<1818>	**
7	伊勢神宝図	五味家伝来	江戸 天明3年<1783>	*
8	集古十種 松平定信(白河松平家3代)編	八十五冊の内	江戸 寛政12年<1800>	**
9	平義器談・古鎧色目・鎧色談 伊勢貞丈著		江戸 明和8年<1771>	*
10	好古集覧 革究図考 池田義信編		江戸 天保15年<1844>	**
11	色々威鎧		南北朝 14	明眼院蔵
12	馬島明眼院景清甲図	五味家伝来	江戸 延享元年<1744>	*
13	明眼院神宝 兜(「張州雑誌」第八十七)	内藤東甫編	江戸 18	*
14	明眼院蔵景清甲冑図(『集古十種』甲冑四)	松平定信(白河松平家3代)編	江戸 寛政12年<1800>	**
徳川宗睦の好古・考証趣味				
15	熱田神宮兵庫鎖太刀ノ図(「張州雑誌」第四十一)	内藤東甫編	江戸 18	*
16	尾張国熱田社蔵太刀図(『集古十種』兵器刀剣一)	松平定信(白河松平家3代)編	江戸 寛政12年<1800>	**
17	葵紋付兵庫鎖太刀拵 徳川宗睦(尾張家9代)所持		江戸 18	**
18	興福寺所蔵義経鎧雛形	十枚の内	江戸 18	*
19	厩戸皇子像(模本)		江戸 18	*
20	秦川勝像(模本)		江戸 天明5年<1785>	*
21	秦川勝像(『集古十種』古画肖像三)	松平定信(白河松平家3代)編	江戸 寛政12年<1800>	**
22	高座之図(模本) 今村随学筆		江戸 天明4年<1784>	*
23	寛政二年新造内裏明細記 柴野邦彦(栗山)編	三冊	江戸 19	*
24	南殿賢聖障子名臣官服考証定本 柴野邦彦(栗山)筆	二冊	江戸 19	**
25	賢聖障子図 住吉広行筆		江戸 寛政3年<1794>	**
26	平治物語絵詞 六波羅行幸巻(模本) 今村随学筆		江戸 天明元年<1781>	**
27	蒙古襲来絵詞(模本) 神谷元秋筆	三巻の内	江戸 寛政8年<1796>	建中寺蔵

* は名古屋市蓬左文庫所蔵、** は徳川美術館所蔵。

源氏物語の世界

平成22年 1月5日(火)～2月14日(日)

『源氏物語』にまつわる写本をはじめ、絵画・書籍・工芸品など、その成立以来さまざまなかたちで享受されてきた『源氏物語』の世界を紹介します。

No.	名 称	時代	世紀(年号)	所蔵先
1	源氏物語(青表紙本系) 伝八宮良純親王筆	五十四冊の内	江戸 17	*
2	光源氏系図 長享本		室町 15-16	*
3	源氏物語系図		江戸 17	*
4	河海抄	十冊	江戸 18	*
5	源氏物語抜書 早蕨 尊円法親王筆		南北朝 14	**
6	源氏物語抜書 霊仙院千代姫(尾張家2代光友夫人)筆		江戸 17	**
7	源氏物語抄 伝東福門院和子(後水尾天皇中宮)筆		江戸 17	**
8	源氏物語画帖 清原(狩野)雪信筆		江戸 17	*
9	源氏物語 花散里・蓬生・篝火	三冊	江戸 19	**
10	絵入版本 源氏物語 山本春正編 慶安3年(1650)跋	六十冊の内	江戸 承応3年<1654>	**

島原の乱

-その攻略と陣形-

平成22年 1月5日(火)～2月14日(日)

寛永14年(1637)から同15年にかけて、島原半島の一角でおこったキリシタン信者や住民たちの一揆が島原の乱です。一揆では原城(現・長崎県南島原市)に籠城した人々、幕府側でも上使板倉重昌(1588-1638)が戦死するなど、多くの死者や負傷者を出しています。この天草地方で起きた一揆軍と幕府軍の戦いを伝える絵図が描かれています。絵図からは、多くの犠牲者を出した戦いの一端が窺えます。

No.	名 称	時代	世紀(年号)	所蔵先
1	天草之図(肥前有馬浦原ノ城)		江戸 18-19	*
2	天草図		江戸 17	*
3	肥前島原合戦図		江戸 18-19	*
4	島原陣図		江戸 18-19	*
5	島原之絵図		江戸 18-19	*
6	原城陣図		江戸 18-19	*
7	肥前国原城図		江戸 18-19	*
8	原城陣図		江戸 18-19	*
9	和蘭フレカット船図		江戸 19	*
10	補増華夷通商考 二冊の内	西川如見著	江戸 18-19	*
11	天草陣雑記		江戸 19	*

*は名古屋市蓬左文庫所蔵、**は徳川美術館所蔵、無印は個人蔵。